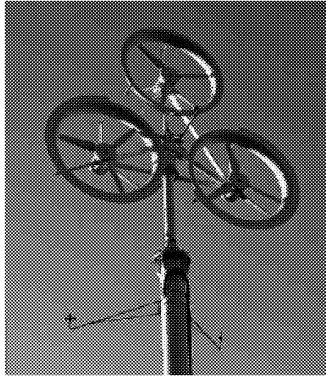


九大発VBのリアムウィンド

「弱風でも発電」実証試験

九州大学発ベンチャーのリアムウィンド（福岡市）は12月から北九州市臨海部の響灘地区で新型の小型風車の実証試験を始める。3つの風車を組み合わせて弱い風でも発電することができると特徴で、発電量などを測定する。再生可能エネルギーの固定価格買い取り制度（FIT）を利用するために必要な専門機関の認証について、2016年夏にも取得を目指す。



小型風車、12月から

来夏の認証目指す

再生可能エネルギーの固定価格買い取り制度の価格設定	
小型風力 (出力20キロワット未満)	55円
太陽光(10キロワット以上)	27円
風力(20キロワット以上)	22円
洋上風力(20キロワット以上)	36円

実証試験を始めるのは出力3キロワットの風車を1つの支柱に3つ搭載した新しいの回りにカバーを付けて

リアムウィンドは3つの風車を組み合わせる新型風車の実証試験を始める（写真は計3キロワットの風車）

風車に入る風の速度を上げ、風速4級の弱い風でも発電するのが特徴だ。この特殊な風車を3つ組み合わせた場合、風がどのようにに変化するかなど発電量や安全性などを実証する。

平均風速4級で年間発電量は8300キロワット時、同5級の場合1万3000キロワット程度と想定している。カバーの効果で、風車が発する風切り音が小さく、騒音が少ないのも特徴だ。

複数の風車を組み合わせた風力発電機は珍しいため、型式認証機関の日

本海事協会（東京・千代田）と協議しながら認証の取得を目指す。早ければ2016年度半ばにも販売を始めた考え。海

外展開も視野に入れている。リアムウィンドはこの新型風車を含む風力発電機を18年に500台販売することを目指す。（庄司啓子）